

# 夢きよく 道はるか

甲府市立東中学校学校だより  
平成27年10月 特別号  
文責：校長 佐藤 正仁

## 本校の学力・学習状況をお知らせします

本年度の全国学力・学習状況調査は、4月21日（火）に全国の小中学校で実施されました。本校でも、調査対象となる3年生が参加しました。調査内容は、大きく①教科に関する問題（国語・数学・理科）と、②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査に分かれ、各教科もA：主として「知識」に関する問題と、B：主として「知識・技能の活用」に関する問題に分かれています。

この調査は、本校の生徒の学力や学習状況を把握・分析し、各教科における課題や生活状況の実態などを明らかにすることにより、今後の指導内容や指導方法の改善、生活指導などに役立てることを目的としています。

去る8月25日に文部科学省から本校に結果が送られてきました。本校も、当該学年職員はもちろん、各教科部会等、全校体制で調査結果の分析を行ってまいりました。このたび分析結果がまとまりましたので、その概要を保護者や地域の皆様にお知らせするとともに、本校のホームページにも掲載していきたいと思っております。

なお、調査に参加しました3年生一人ひとりには、個別懇談等を利用して個人票をもとに、具体的に課題等について説明していく予定です。よろしく願いいたします。

## 分析結果の概要

### 1 本校の状況（全国との比較）

本校の結果は、国語A・国語B・数学A・数学B・理科Bのいずれも全国平均とほぼ同等ですが（理科Aは上回っている）、やや下回っています。国語も数学も同様に、時間的にゆとりがあったにもかかわらず無回答の設問がありました。理科については深く考察することなく短絡的に回答する傾向が見られました。各教科ともに単元により正答率が高い設問があったり、正答率が低い設問があったりします。これについても全国平均とほぼ同等です。傾向としては、自分の考えを説明したり、文章で表現したりすることが苦手なようです。このことから、全体的に基本的な知識や考え方、技能の習得に課題があるということが推測されます。

### 2 各教科の結果・分析・改善点

#### 国語

##### A 主として「知識」に関する問題

- 毛筆を用いて、楷書で文字を書くという設問の正答率が非常に高かった。意見文の推敲や表現技法の理解についての正答率も高かった。また、伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書くという設問の正答率も高かった。反面、次のような設問について正答率が低い傾向が見られた。
- 既習の漢字の読みは定着しているが、書きの定着が不十分である。誤答の中では（余ったお金を貯金する）という問題で「残」「預」などの誤答が見られた。
- 慣用句の意味が理解できていなかったり、語句の意味を実際の様子と結びつけて理解できていなかったりすることから、文脈の中で適切に語句を使うことが不十分である。

- 「古典の作品名を漢字で書く」という出題については、1年生での既習内容であるにもかかわらず、正答率が低かった。
- 単語の類別についての理解が不十分である。「青い」という単語の持つ文法的な役割や品詞の名称が理解できていなかったり、名詞が主語になるなど、それぞれの品詞がどのような文の成分になるのかということの理解が不十分である。

#### B 主として「活用」に関する問題

- 目的に応じて、文章を要約することや効果的な資料を作成し、活用して話すことという短答式の問題に対する解答の正答率が高い傾向にある。しかし、下記のような記述式の設問については正答率が低い傾向が見られた。
- 資料の提示の仕方を工夫し、その理由を具体的に書くことができるかどうかをみる設問。
- 複数の資料から適切な情報を得て、自分の考えを具体的に書くことができるかどうかをみる設問。
- 文章の構成や展開などを踏まえ、根拠を明確にして自分の考えを書くことができるかどうかをみる設問。特に文学的な文章を読んで根拠を明確にして書くという設問については、無解答率も高かった。

#### 主な改善点

##### A 主として「知識」に関する問題

- \*文脈中における語句の意味を理解することに関しては、文章を最初から最後までよく読むこと、新聞のコラムなど様々な種類の文章を読むことも効果的であると考え。また、言語環境を整備し、辞書などで調べる場を増やしていく。
- \*漢字の書き取りに関しては、同音の漢字を文脈によって使い分ける指導を繰り返し行うこと。また、国語科の授業の中だけでなく学級の指導や他教科の連携の中で、辞書を引くことや漢字の間違いについても継続して指導を行うことが、定着のために効果的である。
- \*グラフの読み取りは、今後の授業の中で資料から内容を読み取る場面で、小グループなどを活用し、正しく読み取らせ、読み取ったことをもとにして自分の考えを書くなどの指導につなげていきたい。

##### B 主として「活用」に関する問題

- \*資料の作成や活用をみる問題については比較的正答率が高いので、資料の内容と理由を結びつけ、的確に考えがまとめられるよう、授業中の発言の仕方や課題作文等で指導していく予定である。
- \*資料から適切な情報を得るためには、問題の内容だけでなく、日常生活の中で体験することも併せて読み取ることが必要である。また、自分の考えを具体的に分かりやすく記述することが難しいので、授業中の短作文課題、あゆみノートの毎日の振り返り作文などで記述を繰り返し指導していく。そのためにも、日常的にあゆみノートや行事の感想などを書く習慣をつけたい。

#### 数学

##### A 主として「知識」に関する問題

- 『資料の活用』の領域では、全国平均に比べ上回っている。『関数』の領域は全国平均とほぼ同じだが、『数と式』『図形』の領域についてはやや下回っている。
- 図形の理解が、他の領域に比べると理解が不十分である。
- 多角形の内角の和の性質の理解が不十分である。
- 図形の性質を、記号を用いた表現から読み取ることが苦手である。
- 作図の根拠として用いられている図形の性質の理解が不十分である。
- 証明の必要性と意味の理解が不十分である。

- 無回答率が高い傾向が見られる。
- 分数や複雑な数式に対して苦手意識が強く、最初から取り組まない生徒が多い。
- 問題を読んで、「何を答えたらよいのか分からない」と感じると、すぐに諦めてしまう傾向があるようである。

#### B 主として「活用」に関する問題

- 『数学的な見方や考え方』の観点をみる問題の中でも問題形式が「選択式」や「短答式」のものでは、全国平均よりやや下回っている。しかし同じ観点の問題の中でも問題形式が「記述式」のものは全国平均にくらべ上回っている傾向が見られる。
- 問題解決の方法を図形の性質を用いて説明する問題や、資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する問題についての正答率が低く、無回答率も多い。

#### 主な改善点

- \* 分数の計算を含めた、基礎的・基本的な計算能力の習熟を図るため、ドリル学習に力を入れていく。
- \* 図形の性質を理解させるとともに、それを利用する問題を多く取り入れるとともに、証明問題に取り組む際には、根拠として用いられている図形の性質を意識させるようにしていく。
- \* 問題を見て、自分の力で粘り強く解決できるよう、問題解決型の授業や、グループ学習を取り入れるなどの授業改善を行う。
- \* 3年間の授業の中で、自分の考えを自分の言葉で表現する場を授業の中に多く取り入れ、数学的な表現を用いて説明する力の育成を図っていく。

### 理 科

#### A 主として「知識」に関する問題

- 全体として全国平均をやや上回っているが、化学分野は下回っている。
- 化学分野では、原子の記号や化学式など基礎的な知識の定着が不十分な生徒が見られる。また、質量パーセント濃度の基本的な考え方の理解が不十分である。
- 地学分野では、風向計の原理や仕組みの理解が不十分である。

#### B 主として「活用」に関する問題

- 全体として全国平均をやや下回っている。
- 化学分野では、溶解度の基本的な考え方の理解が不十分である。また、物質の性質について知識の定着、事象との関係の理解が不十分である。
- 水蒸気は気体、水滴は液体であることが知識として定着していない。
- 体積の変化と温度の変化の関連について理解が不十分である。また、飽和水蒸気量に関しての理解も不十分である。
- 比較実験を行うときの「変えない条件」を設定することが苦手である。
- 物理分野では、音に関する問題で音の高低が振幅に関連しているとの誤答が多かった。
- 実験の結果を予想する問題や結果から考察する問題では、短絡的な考えで解答する傾向があり、結果から考察する力が不十分である傾向が見られる。

#### 主な改善点

- 基礎的な用語の知識の定着を小テストなどを活用して図る。
- 質量パーセント濃度や飽和水蒸気量などの計算方法、意味の定着を図る。  
実験の結果からどんなことが考察できるのか、グループ学習を取り入れるなど多くの考え方に触れる機会を設ける。

### 3 質問紙調査の主な特徴

#### 生活習慣について

- 「朝食・就寝時間・起床時間」については、全国平均とほぼ同等であるが、「朝食を食べない、ほとんど食べない」生徒がやや上回っており改善が望まれる。
- 「自分にはよいところがある」と考える生徒が全国平均を上回っており、自己肯定感を持った生徒が多いといえる。

#### 学習に対する関心・意欲・態度について

- 「将来の夢や希望を持っている生徒」および「計画的に家庭学習に取り組んでいる生徒」は、ともに全国平均を上回っており、自己実現に向け努力している生徒が多いといえる。
- 「家の人と学校の出来事について話す」「家的人是学校の行事によく来る」はいずれも全国平均を上回っており、学校に対する家庭の関心の高さを表している。
- 「友達の前で意見を発表すること」「自分の考えを文章に書くこと」が得意な生徒が全国平均を下回っており、言語活動の充実が課題といえる。

#### 1, 2年までに受けた授業について

- 「話し合い活動」「グループ学習での課題解決学習」はいずれも全国平均を上回っている。
- 「自分の考えを説明したり文章に書いたりすること」「原稿用紙に感想文や説明文を書くこと」が難しいと感じている生徒は、いずれも全国平均を上回っている。

#### 家庭学習について

- 「平日の家庭学習時間」については「3時間以上、2時間以上」の生徒は全国平均を上回っているものの、「30分以下」の生徒が全国平均をやや上回っていることから、家庭学習に対する取り組みの差違が読み取れる。

#### 他の目立った特徴

- 「読書量」「図書館の利用回数」はともに全国平均を上回っている。
- 「学級での話し合い活動」「学級での協力体制」はいずれも全国平均を大きく上回っている。
- 「地域や社会をよくするために何ができるか考える」「人の役に立つ人間になりたい」「人の気持ちがわかる人間になりたい」はいずれも全国平均を上回っている。

#### 質問紙からの改善点

- 多くの生徒は自己肯定感を持ち、将来の自己実現に向け努力の必要性を感じていることがうかがえる。反面、家庭での学習時間を含む生活習慣については、大きな差違があり改善が望まれる。

### 4 家庭へのお願いをいたしました

文部科学省によれば、朝食を食べないことは生徒の学力にも大きな影響を与えるそうです。また、保健指導の観点からも朝食を摂ることはとても重要です。中には朝食を「食べたくない」と主張する生徒や「用意しても食べない」「時間がなくて食べられない」という生徒もいます。子どもの健やかな成長のため、また確かな学力の育成のためにも「早寝、早起き、朝ご飯」の励行をお願いいたしました。

本校の生徒たちは、毎日の授業に前向きに取り組んでいます。調査の結果からも、学習への意識の高さや、グループ学習への積極的参加や協力性の高さなど、生徒たちの頑張りが見えます。

しかし、家庭学習については、「3時間以上、2時間以上」は全国平均を上回っているが、「30分以下」も全国平均を上回っている状況から家庭学習に対して2極化の傾向が見られます。学校でも宿題や課題の出し方などについてさらに工夫し、生徒自らが自主的に学習に取り組むことができるよう働きかけていきたいと考えております、各ご家庭におきましても家庭学習の習慣が定着できるよう学習環境を整えるなど、ご理解とご協力をお願いいたしました。